

遊休農地の解消への一歩としての 農業委員会での取り組み

大和高田市農業委員会

1. 大和高田市の農業の概要

大和高田市は、奈良県北西部に広がる奈良盆地の西南部に位置し、ほとんど平坦な地域で、その立地条件を生かして、水稻を主体とする農業経営を行っております。兼業農家が大半を占める水稻中心の土地利用型農業ですが、葛城川・曾我川流域などの肥沃な砂質土壌地域を中心に軟弱



市内の遊休農地

野菜、花卉など都市近郊の立地を生かした収益性の高い集約的な農業経営も盛んに行われています。特にこのような集約的農家において、高収益性の作物、作型を担い手農家を拡大して、地域としての大和高田市特産野菜5品目を選定し、産地化を進め普及拡大に取り組んでいるところであります。

しかし近年、一層の兼業の深化によって土地利用型農業を中心として農業の担い手不足が深刻化しており、また兼業農家の高齢化が進み、機械の更新時や世代交

代等を機に遊休農地の増加が加速化する可能性が高まっています。軟弱野菜産地維持発展、高度な栽培技術の承継とともに効率的かつ安定的な農業経営を目指す若い担い手後継者の育成が急務となっております。



2. 農業委員会の取り組み

① 具体的な取り組み内容

本市では、毎年田植え時、稲刈り後に利用状況調査を農業委員が各自で担当地区を調査しております。集落内所有者には担当委員から指導し、農地の適切な管理をお願いし、市外等の所有者には文書により指導しています。



園児とさつまいもの植付け

今年度からの取り組みとして、市内の遊休農地の発生原因を探るべく、農政部会で、各農業委員担当地域の調査を田植え後に行い報告された遊休農地の状態を調査いたしました。本市のほとんどは平坦地であり鳥獣被害は少なく、たぬきやアライグマなどがたまに出没する程度であり山間部に比べると山林化した農地等は非常に少ない状態です。遊休農地化の

傾向としては排水等の土地条件の悪い農地や相続等で取得された不在村地主の農地が多く、担い手からも敬遠されがちな農地で集約が進まないのが現状です。

本年度は、遊休農地解消の一步として、農業委員会では長年放置された不在村地主の農地の再生に取り組みました。草の伸びた中にはゴミや廃材などが山積され、ゴミの処分から取り組みました。排水の悪い農地で木も繁茂しておりユンボ等の重機を使い水路の改修も行い農地の再生に取り組みました。再生した農地は、食育教育の一環として保育所の園児さんたちとサツマイモを植え、収穫を行ない給食にも取り入れていただきました。また、収穫したサツマイモは市内の養護施設や老人ホームにも配布、また



さつまいも無料配布



農業委員会PRブース

農産物品評会の際には農業委員会の活動のPRで農地の有効利用を呼びかけるるとともに無料配布いたしました。また黒豆、大豆も植えており味噌づくりを行います。この再生農地は、市内の担い手の方に耕作していただく予定です。

②取組みに当たっての課題

今後ますます、転用等で排水や日照の悪い土地条件の農地が増え、相続等による農地の分散化で遊休農地が増えてくる可能性が大であります。遊休農地化が進む前に、意向調査等を行い再生しやすいうちに農地の有効利用を図っていかねばならないと考えます。そのためには、兼業農家の高齢化で、ますます担い手不足の深刻化が考えられるため新たな若い担い手の確保が急務であります。また農家のみではなく、団塊の世代の現役をリタイヤした非農家の人たちをターゲットに特定農地貸付法等により市民農園としての利用も視野に入れ解消計画を進めて行かなければならないものと考えております。

③課題への対応方策

農業委員会としては、日常的に、担当地域のパトロールを行い違反転用や遊休農地発生防止に努めてまいらねばなりません。

利用状況調査では、農地の適正管理の指導を行い、その際に意向調査も進め、農地と人との結びつけに積極的に取り組み、また、市が進めている「人・農地プラン」の作成にも協力し、各集落内での集会に参加し、担い手の掘り起こしも進めてまいらねばならないものと思われま。日頃より農家の相談活動を気軽に行い、農家に密着した地道な活動を通じて農地を遊休農地化させないよう取り組んでまいり、今後も担い手が引き受けにくい農地を再生し、一筆ずつでも解消に取り組んでいきたいと思ひます。